

## 新宿区文化芸術振興会議 第1期を終えて



新宿区文化芸術振興会議

会長 高階 秀彌

新宿区文化芸術振興会議は、平成22年4月に施行された「新宿区文化芸術振興基本条例」を制定するにあたり設置された「新宿区文化芸術の振興に関する懇談会」の28項目の提言について、様々な機関の協力を得て、条例で定める「私たち区民」の取組状況の確認を行ってまいりました。また、これからの新宿のまちの文化芸術振興にあたり「ネットワークの構築」、「文化芸術による新宿の街の魅力の創出」、「文化芸術と私たち区民による取り組み」が重要であることから、3つのテーマを集約した「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム」の展開を調査審議事項として設定しました。

「私たち区民」に求められている28項目の提言は多岐にわたっており、関連する多くの機関や団体の活動により、その取り組みは確実に振興が図られてきています。新宿区には、区民、文化芸術団体、学校、企業等、実に様々な担い手が、それぞれ個性を活かして活動しています。また、新宿区の持つ多彩な文化芸術は、人と人とを繋ぎ世代やジャンルを超えた広がりを見せてきています。

その上で、平成23年度に試行的に行った「見て・来て・楽しい 新宿フィールドミュージアム」は、文化月間（10月～11月）の設定により新宿のまちの魅力を集中的・連続的に発信しました。各種実行委員会・NPO法人・学校・企業等のイベント主催者をはじめ、地域や地元商店街等の支援を受け、実施に至るまで短期間であったにも係わらず、28の団体が52のイベントを実施しました。文化月間中に97万人を超える方々に参加していただき、また、新宿フィールドミュージアムの活動を通じた多くのネットワークも生まれ、新宿の持つ力を改めて実感できました。この取り組みは、新宿フィールドミュージアム実現の一步であり、この度の試行的な実施から明らかになった課題を整理し、新宿のまちの魅力をより一層発信していくことが求められます。

文化芸術振興会議の第1期は、条例制定の趣旨を踏まえ審議を重ねてきました。この2年間の審議から、「私たち区民」の活動をより効果的なものとするためには、ネットワークの構築やそのコーディネートをより強化していくことが必要であると考えます。さらに、文化芸術が地域の活性化の一翼を担うことが求められます。文化芸術の持つ大きな力を「私たち区民」により可視化・顕在化させ、にぎわいと活力にあふれる「文化芸術創造のまち 新宿」の実現へとつながっていくことを期待します。